

茶ぐわ〜 ゆんたく

お茶を飲みながら、
ぎのわんの歴史を
のぞいてみませんか？

179

大山集落北の玄関口を 見守ったヒラマーチャー

皆さんは、2017年に沖縄県立博物館・美術館などで開催された企画展「ウイルソンが見た沖縄」をご覧になったでしょうか？この企画展では、イギリス人のプラント・ハンターである、アーネスト・H・ウイルソンが、1917年に沖縄で撮影した風景などの写真が紹介されました。ウイルソンは宜野湾にも訪れており、在りし日の宜野湾



▲大山ヒラマーチャー 1917(大正6)年頃
平坦な樹冠が見事に広がっています。
『写真集ぎのわん』より



現在のサータミチ▶



▲現在の大山ヒラマーチャーがあった場所

並松の他に、大山にかつてあったリュウキウマツの平松も写真に収めています。

上の写真は、ウイルソンの写真と同じ頃に撮影されたと思われる大山平松の写真です。ウイルソンの記録によれば、幹回り3m、樹高7・6m、樹冠は18・3mにも及んだそうです。この平松は、大山集落の北側の旧県道(ほぼ現国道58号)沿いにありました。写真手前に見える道が旧県道で、集落内から客馬車が伊佐方面に走る様子が写されています。奥には民家が見えますが、1939(昭和14)年には、この場所に国の助成金を得て製糖工場が建設されました。そのため、製糖工場南西側の筋道は、サータミチと呼ばれていました。大山平松や製糖工場は去る沖縄戦で失われましたが、サータミチは現在もその名残を残しています。

【問合せ】
市立博物館 ☎870-9317



【其の42】

イガルー・シマ文化財教室

宜野湾市には、多くの文化財や名所旧跡があります。私たち文化課は、より多くの市民の皆さまにこれらの場所へ、実際に足を運んでいただきたいと考えています。しかし「道がわからない」とか「詳しい説明板がない」ということで「実際に現地へ足を運ぶのはちょっと」とためらっていませんか。そんな皆さまに、文化課が開催している「イガ

ルー・シマ文化財教室」をご紹介しますと思います。

「イガルー」とは沖縄の方言で「私達」などを指す言葉で、「シマ」はここでは「地域」という意味です。つまり、「イガルー・シマ文化財教室」は宜野湾市内にある地域の文化財について学ぶ教室で、今年度で18回目となります。市内の地域に焦点を絞り、室内での講義や現地での文化財案内などの講座を開催します。毎回、それぞれの分野に詳しい講師が担当しており、充実した内容を学ぶことができます。

平成31年度も、「イガルー・シマ文化財教室」を開催する予定です。募集のお知らせは、7月頃を予定していますので、お気軽にご応募ください。

【問合せ】
文化課 ☎893-4430



▲第1回
「真志喜を知ろう」



▲第2回
「真志喜の綱引きを知ろう」



▲第4回
真志喜ヌンドウンチの見学